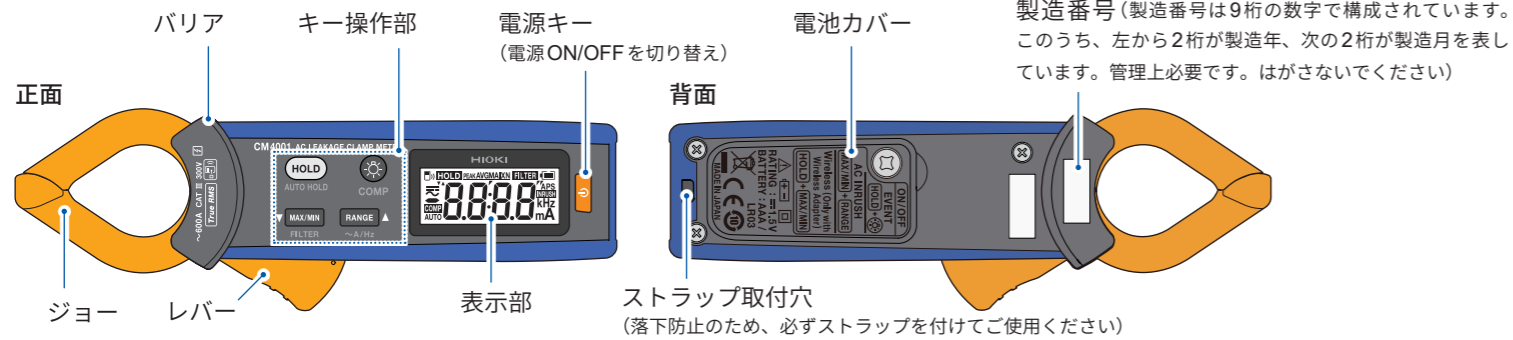


各部の名称と機能



キー操作部

キー	1回押す	1秒以上押す
	測定値をホールド（ HOLD 点灯）（解除： HOLD キーを押す）、GENNECT Cross使用時は測定値保存	オートホールド機能のON/OFF（ HOLD 点滅）
	バックライトのON/OFFを切り替え キーの最終操作から約40秒点灯後、自動消灯	コンパレーター機能のON/OFF（ COMP 点灯）
	統計機能をONにする。統計機能をONにしてから現在までの統計値の表示を切り替え 表示内容：最大値（ MAX ）、最小値（ MIN ）、平均値（ AVG ）、最大波高値（ PEAK MAX ）、最小波高値（ PEAK MIN ）、現在値（ — ）	統計機能ONのとき： 統計機能のOFF 統計機能OFFのとき： フィルター機能のON/OFF（ FILTER 点灯）
	測定レンジを切り替え	周波数測定と電流測定を切り替え

パワーオンオプション（キーを押しながら電源ONにする）

キー	機能	初期値	設定記憶
	オートパワーセーブ（APS）をOFF	ON	できない
	バックライト自動消灯のON/OFF	ON	できる
	フィルター機能を起動時ONまたは起動時OFF	OFF	できる
	ブザー音のON/OFF	ON	できる
	簡易イベント記録機能のON/OFF	OFF	—
	製造番号を表示	—	—
	製品形名、バージョン、LCD全点灯	—	—

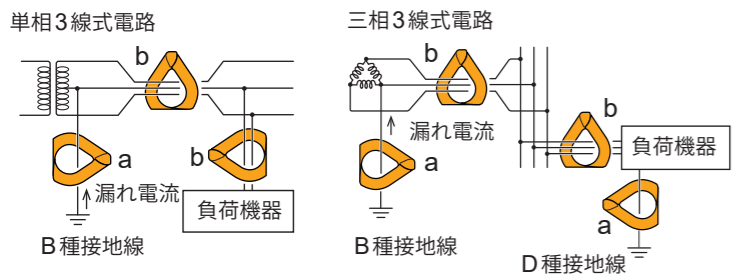
測定方法

保存や輸送による故障がないか点検と動作確認をしてから使用してください。ジョー先端に傷やひび割れがないことを確認してください。故障を確認した場合は、お買上店（代理店）か最寄りの営業拠点にご連絡ください。

⚠ 危険

- 感電事故を防ぐため、使用中はバリア（障壁）から先を触らないでください。
- 最大測定電流は周波数によって変わり、ディレーティングとして連続測定できる電流が制限されています。ディレーティングを超える電流を測定しないでください。ディレーティングを超える電流を測定すると、センサーからの発熱による故障、火災、およびやけどのおそれがあります。

漏れ電流測定



- 接地線での測定は、電線を1本だけクランプします（図のa）。
- 零相電流測定の場合は、電線を一括してクランプします（図のb）。
- 単相2線式電路は、2線を一括してクランプします。
- 三相4線式電路は、4線を一括してクランプします。クランプできない場合は、機器の接地線でも測定できます。
- 次のような場合、正確に測定できないことがあります。
 - 近接した電線に大きな電流が流れている環境での測定
 - インバータ二次側のような特殊な波形の測定
- ジョーの開閉時、一時的に大きなカウント表示が出ることがありますが、異常ではありません。表示が0に戻るまでに若干時間がかかります。表示が0に戻る前に測定を行っても、測定値への影響はありません。

交流電流測定、周波数測定



- 電線を1本だけクランプします。
- 電線とセンサが垂直になるように配置します。
- 突入電流や変動が激しい電流の場合には、正確な測定ができない場合があります。
- 低温時など無入力においても、表示が0にならない場合がありますが測定に影響はありません。
- RANGE**キーを1秒以上押して、周波数測定と電流測定を切り替えます。

過入力警告

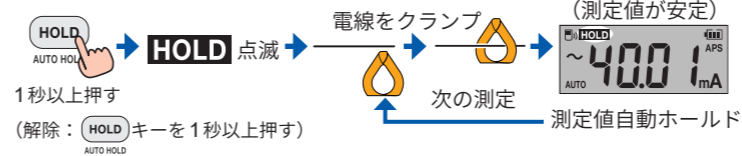
（赤色点灯または赤色点滅とブザー音）
電流測定で、測定値が測定範囲を超えています。過入力なので測定を中止してください。コンパレーター機能とイベント記録機能において、しきい値を超えた場合も赤色点灯します。



便利な機能

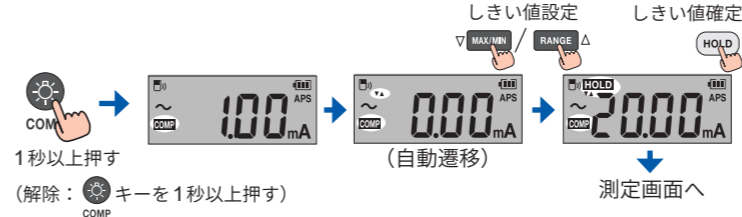
オートホールド機能

測定値が安定したら自動で表示を保持します。



コンパレーター機能

あらかじめ設定したしきい値を超えると、断続ブザー音と表示部を赤色点灯して知らせます。

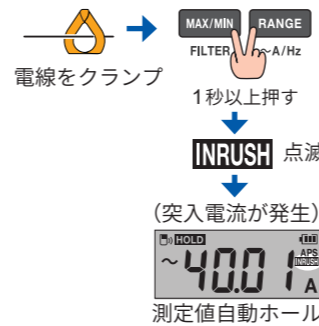


フィルター機能

ローパスフィルターにより、ノイズの影響を軽減できます。通過帯域は180 Hz ± 30 Hzにて-3 dBです。電流周波数が180 Hzを超える場合は、フィルター機能をOFFで測定してください。フィルター機能ONで測定すると、実際よりも低い値が表示される場合があります。マニュアルレンジに設定し、レンジによって測定値が異なる場合は、上のレンジの測定値を採用してください。

ACインラッシュ機能（突入電流測定）

突入電流が発生したときに測定値（実効値）を保持します。



HOLDキーを押すと再測定できます。
MAX/MINキーと**RANGE**キーを同時に1秒以上押すと、通常測定に戻ります。
ACインラッシュ時のレンジは、電流測定時のレンジに固定されます。ただし、電流測定時のレンジがAUTOレンジの場合は600.0 Aレンジに、60.00 mAレンジの場合は600.0 mAレンジに、それぞれ固定されます。

オートパワーセーブ（APS）機能

無入力かつ無操作状態が約10分継続で電源をOFFにします。

イベント記録機能

イベント記録機能は、GENNECT Crossを使用して任意のしきい値を設定し、それを超えた場合にデータを記録する機能です。詳細は、GENNECT Crossの使い方ガイドをご覧ください。
本器では、記録されているイベントの件数を確認できます。

保守・サービス

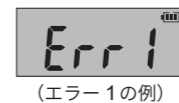
故障と思われるときは、電池の消耗を確認してから、お買上店（代理店）か最寄りの営業拠点にお問い合わせください。本器を輸送する場合は、振動や衝撃で破損しないように取り扱ってください。

クリーニング

本器の汚れをとるときは、柔らかい布に水か中性洗剤を少量含ませて、軽く拭いてください。

エラー表示

電源投入時、表示部にエラーが表示された場合は修理が必要です。お買上店（代理店）か最寄りの営業拠点にご連絡ください。



無線通信機能（GENNECT Cross）

携帯端末で本器の測定データを確認し、測定レポートを作成できます。詳細は、GENNECT Cross（無料アプリケーションソフト）の使い方ガイドをご覧ください。

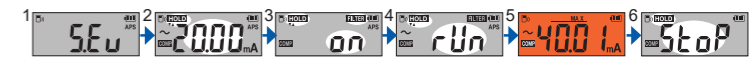
- Z3210 ワイヤレスアダプタ（オプション）**を本器に取り付ける
 - 本器の電源を切り、クランプ部分を測定対象から外す
 - ねじを回して電池カバーを外す
 - 保護キャップを外す
 - Z3210を向きに注意して奥まで差し込む
 - 電池カバーをかぶせ、ねじを回して締める
- 携帯端末に**GENNECT Cross**をインストールする
- 本器の電源を**ON**にして、無線通信機能が**ON**であることを確認する
 - 点滅：携帯端末に接続中（ON/OFF切り替え）
 - 点灯：無線通信機能ON
 - 消灯：無線通信機能OFF
- GENNECT Cross**を起動し、本器を接続登録する
- 測定機能（標準測定、波形表示など）を選択して測定する

- 通信距離は見通し約10 mです。通信が可能な距離は、障害物（壁、金属の遮へい物など）の有無、および床（地面）と本器との距離で大きく変わります。安定した通信をするために、電波強度が十分であることを確認してください。
- GENNECT Crossは無料ですが、アプリケーションソフトをダウンロードする、および使用する際のインターネット接続の費用はお客様がご負担ください。
- GENNECT Crossは、携帯端末によっては正常に動作しないことがあります。

簡易イベント記録機能

最大値がしきい値を超えると、バックライトが赤色に点滅して警告します。

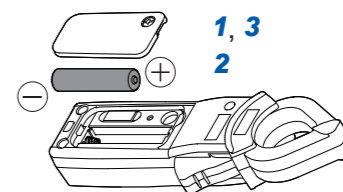
- HOLD**キーと**統計機能**キーを同時に押しながら電源を入れる
 - しきい値を設定する（**▼/▲**キーで値を変更、**HOLD**キーで確定）
 - フィルター機能のON/OFFを設定する（**▼/▲**キー、または**MAX/MIN**キー1秒以上押して切替、**HOLD**キーで確定）
 - HOLD**キーで記録を開始する
 - ▼/▲**キーで記録停止確認画面へ遷移する*
 - HOLD**キーで記録開始画面に戻る*
- *：約4秒間無操作が続くと、記録中の画面に戻ります。



電池交換

⚠ 警告

感電事故を避けるため、本器の電源を切り、クランプ部分を測定対象物から外してから、電池を交換してください。



- ねじを回して電池カバーを外す
- 電池を交換する
- 電池カバーをかぶせ、ねじを回して締める